# 東アジアの経験とエチオピアへの教訓

GRIPS 開発フォーラム勉強会でのコメント

原 洋之介

# 大野の結語 社会はジャンプできない

- アビィ首相の自由化は、政治的にも経済的にも速すぎる可能性あり。エチオピアの1人当たり所得は790ドル。中間層はまだ小さく、社会問題や民族対立を平和的に解決できる政治文化や階層は十分育っていない。
- エチオピアが自国の発展段階をよく踏まえ、将来のロードマップも見通した現実路線を歩むことを望む一政策学習の継続、市場介入と規制緩和のバランス、官民の理解と協力体制の醸成、社会安定を確保した民主化推進など。

# メレス首相のDD論

- DDとは「複数政党制の下で自由選挙に勝利しながら、開発成果 をあげて政権を長期的に維持し、一貫した開発政策を維持する 体制」
- 「民主化と政策一貫性の間には避けがたいトレードオフが存在 している。開発国家が選挙で負けて退出するリスクは常に存在 する。だがそれは絶対にそうなるわけではない。
- 「私が最後に強調したいのは、ADとDDはより近いということ だ。」

# 東アジアの開発体制 初期成長局面

- 大野の「東アジアの経験:成長と社会政策の同時追求」における局面区分に照らすと、エチオピアは、ほぼ、低所得経済から中所得経済へのキャッチ・アップ過程を辿っている初期成長局面と対応している。この局面とは、東アジアでは開発志向型国家Developmental Stateによる積極的な政策の主導された成長の時期、権威的開発主義 Authoritarian Developmentalismの時代である。
- インドネシア スハルトの時代
- タイ サリットからプレムの時代
- 中国 鄧小平の時代
- 補。何故、東アジアで権威主義的独裁体制が誕生したのか 中華人民共和国の成立、朝鮮戦争からベトナム戦争終焉までアジアでの 「冷戦」構造がその背景にあった。

# 第2成長局面

- 東南アジア諸国では、21世紀にはって以降、さらなるキャッチアップの追求と同時に社会的安定をも政策課題とする民主的開発主義Democratic Developmentalismの局面に転換ないし移行している。この第2局面では、初期成長局面の時期に既に発生していた多くの格差を是正する再分配政策=社会政策を、さらなるキャッチアップの追求と同時に実施する局面である。そして東南アジアでは、初期局面の権威主義的政治体制から、民主化された政党政治を軸とする政治体制への転換があった。タイのタクシン政権、インドネシアでのユドヨノ政権である。
- 中国 胡錦濤の時代

#### エチオピア経済の現状

- 1億の人口をもつ「大国」
- 農業部門の比重はいまだ大きい経済
- 国内のエスニック集団間の対立を抱える

- 東南アジア諸国から20年ほど遅れて、労働集約的製造業部門 へ外国を呼び込むことで、資本・企業をキャッチアップ型成長 が開始され、中所得水準達成の手前にある
- 低所得経済の状態の下での、経済成長と格差是正とを同時に達成させるという困難な問題に直面している

# 農業開発格差是正のための政策

- メレスのDDの政治構造として、「小農との連携を政治基盤として、農業発展主導型工業化ADLIをすすめるという農工リンク型開発」が重要であった。これは、エチオピア経済全体の発展にとって農業の発展が重要との認識。これは日本を含めて、中国、東南アジア諸国の歴史的経験から十分に評価できる。以前書いた小生のエチオピア紀行でも、ルイスの発展論と関連して言及しておいた。この農工リンク開発戦略は、インドネシアのスハルト政権以来の米増産政策と大層類似している。
- スハルト政権は、その権威主義的政治体制を底辺で支えるために、人口密度の高いジャワ農村で構築された村落単位での協同組合KUDを組織化した。そして、米の高収量品種、化学肥料、営農資金を個々の農民に提供した。
- 胡錦濤時代の「3農問題」への取組

# 終わりに 政策対話の条件

• 民主主義開発体制下の国との政策対話が抱える問題 民主化と政策の一貫性の間のトレードオフ

• 経済政策決定のための有効な制度作り。

この制度がどう機能するかは、基本的にリーダーのタイプや資質によって異なってくる。

The institutional foundations are in place for economic policy-making.
But how these institutions perform ultimately depends on who runs
them Hal Hill

# 補論 現状を長い歴史的パースペクティ ブの下で捉える

近現代経済成長という長い歴史過程を捉える分析枠組みとしての「経済成長局面」分析

大川一司の日本経済成長研究からヒント

明治維新後の150年間の経済成長を5つの成長局面に区分 均衡成長局面、不均衡成長局面

高度成長局面、安定成長局面、長期停滞局面

#### 執筆中の研究報告

- 「21世紀のアジア経済をどう捉えるか:アジア・ダイナミズム再考―長い歴史的パースペクティブの下で」
- 「日本経済の150年」
- 「東南アジア経済の50年」
- 「中国経済の50年」

# ほぼ50年、アジア経済の変化を観察してきた経験 経済成長局面分析

キャッチアップ型成長とは、いくつかの「成長局面」を通過し ていく歴史過程である。この「成長局面」を、産業構造、資源 配分の機構、そして経済政策といった複数の重要な側面からな る経済制度がその基本型を変質させることなく持続する20・ 30年ほどの期間と捉えておこう。そして経済発展の過程では、 世界経済の変質といった外的要因の変化と、国内経済の変質と いった内的要因の変質によって、それまで効率的に機能してき た経済制度が非効率となり、新しく出現した内外要因に適応し うる経済制度に移行せざるをえない状況が生まれることになる。

「中進国の罠」とは、経済発展が開始されて以降の初期成長を 実現せてきた経済制度の有効性・効率性が問われるような段階 にいたって顕在化してくる現象のことである。そして、 うな成長局面の移行が、スムーズに進化することは非常に困難 であることも事実である。それまで効率的・効果的に機能して きた経済制度の変更である以上、この移行は大きな困難をとも なう「不連続的な」シフトとなることが普通であろう。この発 展局面の移行の経過は「断続的均衡経路punctuated equilibrium」として捉えることも可能であろう。そして、成長 局面の移行期の生じる問題は、制度がひとつの均衡から別の均 衡に移っていく「踊り場」の過程で生じる政策課題であるとい うべきものなのである。

経済成長のメあったのでは 成長局面に国において 同処はそ t、何 \過程、 同 斂 なな な国 で 発 は単 いな始 歴史経路条件の差 。期そる いる。比較す 厚で 存在し 済成長 た業 の作 を

# 東アジアでの成長局面の移行

- 初期成長局面 初期成長局面での高度成長とは、後発国の優位性の活用—端的にいって豊富な安価な労働力の投入増による成長によって「中所得経済」へとキャッチアップを達成した時期である。まさにルイス・モデル型成長の局面。
- 第2成長局面 初期成長局面で顕在化した問題をどう克服するのかという課題に直面している時代であり、政策目標も、成長の増大だけに焦点をあてた局面から、さらなる成長の実現と所得の不平等化への対応との実現というデュアル・トラック政策の登場してきた時期である。

# 成長と格差問題

- 初期局面でも格差は問題ではあった。
- しかし、経済成長の果実がトリックルダウンしていくので、問題はないという考えが主流であった。"Shared Growth" in East Asian Miracle
- Pasuk Phongpaichit and Chris Baker eds UNEQUAL THAILAND Aspects of Income, Wealth and Power Nus Press 2016